

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫

◇◆◇ No.0584 ◇◆◇

20/05/20

【 コロナ禍のなか、米国における為替事情を注視 】

引き続き新型コロナに関する話題が金融市場を席卷するなか、一足早くコロナ禍から脱却した中国の傍若無人ぶりの対応、世界の覇権を本気で取りにいっているような動きが気掛かりだ。米国だけでなく、日本や豪州、ニュージーランド、フランスなどに対しても喧嘩を吹っ掛けており、そこそこで小競り合いが発生しているのは周知のことだろう。

その一方、米国においても幾つか気になる動きが観測されている。そこで本日は米国関係、なかでも為替に関するファクター2つを取り上げ、以下でレポートしてみたい。

<< 続報:トランプ氏、「ドル高支持者」に転換か? >>

4月30日の当レターで、筆者はトランプ米大統領が「ドル高支持者」に転換した可能性をレポートした。4月17日の記者会見で、突然「ドルはとて強い。強いドルは全体としてとても良いことだ」と指摘したことによる。

詳細はバックナンバーを参考にしてもらおうとして、トランプ氏といえば2017年1月の米大統領就任前後から、一貫して米製造業者や輸出業者のためにドル安・円高を求めてきただけに正反対とも言えるコメントに、市場の一部から驚きをもって迎えられていたわけだ。

とは言え、トランプ氏の「ドル高支持」発言は、しばらくのあいだ、その一回限りにとどまっていた。したがって、「本当に方針転換をしたのか」という疑念を抱く声さえ聞かれていたのだが、先日ついに2度目の「ドル高支援発言」が聞かれている。

具体的には今月14日、FOXビジネス・ニュースにおけるインタビューに応じたトランプ氏は、「強いドルを持つ好機だ。我々がドルの強さを維持したため、誰もがドルを持ちたがっている」と述べたという。およそ1ヵ月程度の期間を経ての2度目の発言。いずれにしても、これを持ちトランプ氏は名実ともに「ドル高支持者」に転換したと考えても間違いのないような気がしている。

なお、参考までに最初のドル高支持発言が聞かれた4月17日のドル/円相場は、一時108円台をつける局面もみられたがおおむね107円台で推移。3月後半にドル高値111円台を示現したのちのドル下降局面における中段保ち合いという場面においてだった。

それに対して今月14日はというと、レベル的には107円前後。先月よりもわずかながら、ドル安・円高水準で発言が聞かれていたことになる。これからすると、いまスグにと言うことではないだろうが、さらなるドル安・円高が進行した局面、たとえば105円などを今後割り込んだ際にはもっと強い口調での「ドル高支援」コメントが発せられても不思議はないのかもしれない。

<< 為替報告書の発表遅れる、いつまで延期? >>

米財務省は、通常4月と10月の半ばをそれぞれメドに為替報告書を公表し、為替操作国の認定などを行っている。しかし、昨年10月分は米中貿易交渉の影響で、発表が遅れに遅れ、正式公表されたのは今年の1月だった。3ヵ月程度も遅れた計算になる。

それからすると、今年4月公表分も後ズレすることは、ある意味当然。そして実際、本稿執筆時およそ1ヵ月遅れの時点でもまだ発表されていない。

一方、ロイターが4月末に台湾中銀関係者の話として報じたところによると、「米財務省から為替報告書の発表が遅れるとの通知があった」とされ、「新型コロナの感染拡大が原因だ」と説明されたという。

この話が事実だとすれば、米国において経済活動は徐々に再開しつつあるものの、依然として感染拡大も収まらない国内事情が続いているだけに、まだまだ為替報告書を公表できる状況にはないように思われる。さらに、「強固な対中スタンス」を示す材料などとして、今秋11月に予定されている米大統領選に向けた「政争の具」に使いたいとの思惑が強まるようだと、公表がさらに後ズレしてもおかしくないだろう。早くても初夏以降、遅ければ初秋といったように、それこそ市場が存在を忘れるような時期に公表される可能性も否定出来ない気がしている。(了)

